

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

大門中学校区	校番	福山市立野々浜小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月13日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	主体性	表現力	協働性
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定が現状より高い内容や数値が見られる。先生方は頑張っているため、次年度は、目標達成ができるように内容等を検討してもらいたい。</li> <li>次年度はコミュニティ・スクールになるので、今後よりいっそう地域連携を図りながら教育活動を行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・表現力に課題がある。</li> <li>自己有用感が低く、他者理解の醸成が十分にできていない。</li> <li>スマホやゲームなどを長時間利用したり、家庭学習の習慣が定着できにくかったりする状況がある。</li> <li>ボランティア活動に積極的に参加している児童生徒と、参加が難しい児童生徒の二極化が見られる。</li> </ul>	めざす子ども像(義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた生徒		
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の定着と主体的に表現できる授業を創る。</li> <li>生徒指導実践上の4つの視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安心・安全な風土の醸成)を生かした指導を進める。</li> <li>メディア(ゲーム、インターネット、スマートフォン等)の利用の仕方を振り返り、授業につながる家庭学習の充実に向けた取組を進める。</li> <li>学校における働き方改革を進める。</li> </ul>		

育成する 資質・能力	主体性	表現力	協働性	
小学校 1・2年	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	身近な人に温かい心で接している。	
3・4年	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	相手の気持ちを考え、行動している。	
めざす 子ども像	5・6年	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、自分から行動している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
中学校 1年	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、自分から行動している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、論理的に説明をしたり、適切な方法を選択したりして表現している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。	
2・3年	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、粘り強くやり抜くことができるよう行動している。	生活体験や既習事項から判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、情報を他者と共有したりしながら、必要な選択をし、表現している。	仲間とともに、何かを成し遂げた成功体験をもとに、人と人とのつながりの中で、助け合い励まし合って行動している。	

III 自校

学校教育目標
よりよく生きようと学び合う子どもの育成 ～かしこく うつくしく たくましく～

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度全学年対象に行った標準学力調査において、ほとんどの学年において、全国平均の正答率を大きく下回り、正答率40%未満の児童においては、国語科15.1%、算数科20.6%占め、基礎学力の定着に課題がある。</li> <li>行事ごとの目標設定や振り返りの充実によって、目標に向けて取り組むことの大切さを認識したり、達成感を感じたりする児童の意識の高まりがみられる。また、掃除名人やHappyTree大作戦により、自己有用感が高まりつつある。</li> <li>スマホ等の利用時間においては、3時間以上利用している児童が21.2%(市平均14.6%)と多く、その一方で家庭学習の時間や内容について課題がみられる。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業づくりポートフォリオを基軸に、学級の課題を把握し指導の手立てを工夫改善へとつなげることができている。しかし、40%未満に対する児童への支援や指導を行うが、学力の定着へつなげることができていない課題がある。</li> <li>45分間の授業で適用題を解ききる時間を保証できていないため、個々の評価が曖昧になり、学習内容の定着に差がみられる。</li> </ul>

研究	テーマ	<p>学びを深める算数科の授業づくり ～基礎学力の定着を図るための学習過程の工夫を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査等の分析から課題を明確にし、児童の実態に応じた指導方法を研究することを通して、基礎学力の定着を図るための授業づくりを行う。</li> <li>基礎学力の定着を図るために、帯タイムや家庭学習における分散学習の在り方について研究を行う。</li> </ul>
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>45分間の授業時間の中で適用題まで行き、基礎学力の定着を図る。</li> <li>計画的かつ持続的に分散学習を行い、個々の児童の“分かる”“できた”を大切にす授業。</li> </ul>

福山市立野々浜小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	【確かな学力】 基礎学力の確実な定着	★	新規	児童の基礎学力の定着・向上と学び続ける力の育成をする。【表】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査等の分析から課題を明確にした授業改善を通して児童の学力の向上を図る。</li> <li>・帯タイムや家庭学習等の活用を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。</li> <li>・児童の実態を考慮し、学習意欲向上につながる家庭学習を提示していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力調査において、同一集団の昨年度の平均正答率より全学年+5P以上にする。(国語・算数)【標準学力調査等】</li> <li>○「4月と比べて家で学習する時間はどう変化しましたか」の質問項目において、「増えた」と回答した割合を22%以上にする。(R7市平均22.2%)【保護者アンケート】(中学校区共通項目)</li> </ul>								
8	【豊かな心】 達成感・自己有用感の享受と自尊感情の醸成		継続	児童相互の立場の自覚を促し、お互いを尊重し合い、自尊感情の高い児童を育成する。【主】 【協】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を通じた振り返りを行い、練習や本番に目的意識をもって取り組めるようにする。</li> <li>・異学年との関わりの中で、相互に評価し合う場を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標の達成に向けて努力した」と回答した児童85%以上(R7末95%)にする。【児童アンケート】</li> <li>○「自分には良いところがあると思う」と回答した児童の割合を80%以上(R7末84%)にする。【児童アンケート】</li> </ul>								
1	【健やかな体】 基礎体力の向上と基本的生活習慣の確立	★	新規	家庭と連携を図り、基本的生活習慣の確立を図ろうとする児童を育成する。【主】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディウィークの取組を充実し、児童の基本的生活習慣の確立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テレビゲーム、スマホ等の利用時間の3時間未満の児童の割合を80%以上(R7_3回目78.8%)にする。【保護者アンケート】</li> </ul>								

1	【生き生きと働ける環境整備】 教職員の元気・やりがいの醸成		新規	業務改善を通じた学校組織の活性化の推進を通して、やりがいを実感しながら業務を進めることのできる職場づくりを進める。【主】 【協】	・教職員による業務改善を通じた学校組織の活性化を図る。 ・各種計画を早めに提示し、勤務時間を意識しながら見通しをもった業務遂行ができる体制づくりをする。 ・職員個々の目標達成に向けて日常的に交流し合い、協働して取り組む職員集団づくりを進める。	○時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合を100%にする。 【入退校時間記録表】  ○職員アンケートで「やりがいを感ずる」職員の割合を80%以上にする。 【職員アンケート】									
1	【地域と共にある学校づくり】 保護者・地域から信頼される学校の創造	★	新規	学校・家庭・地域が学校の課題や取組・成果を共有・協働して児童を育てる。 【協】【表】	・ふるさと学習の充実を図る。  ・学校の取組を保護者や地域に積極的に情報発信したり、家庭・地域の協力を要請し、課題解決を図ったりする。	○地域と連携したふるさと学習を全学年1回以上行った割合  ○「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合を90%(R7末94%)以上にする。 【保護者アンケート】									

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。